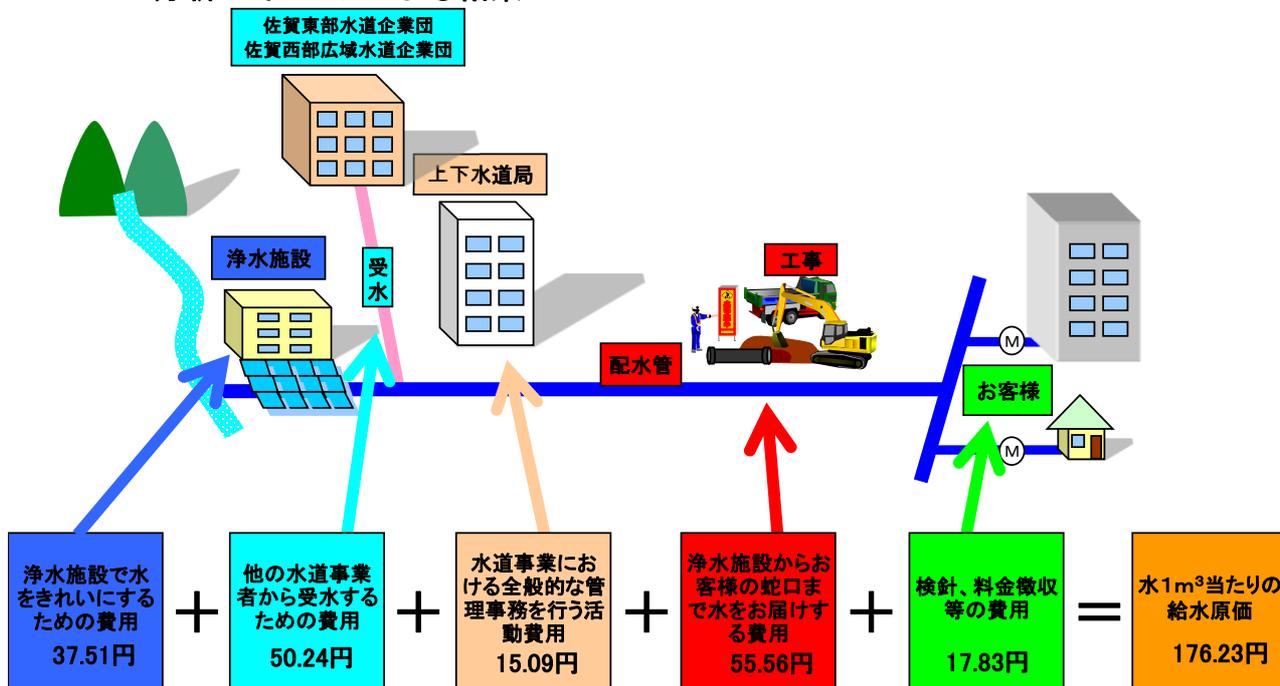


# ABC分析結果(水道事業)

## 令和6年度末現在

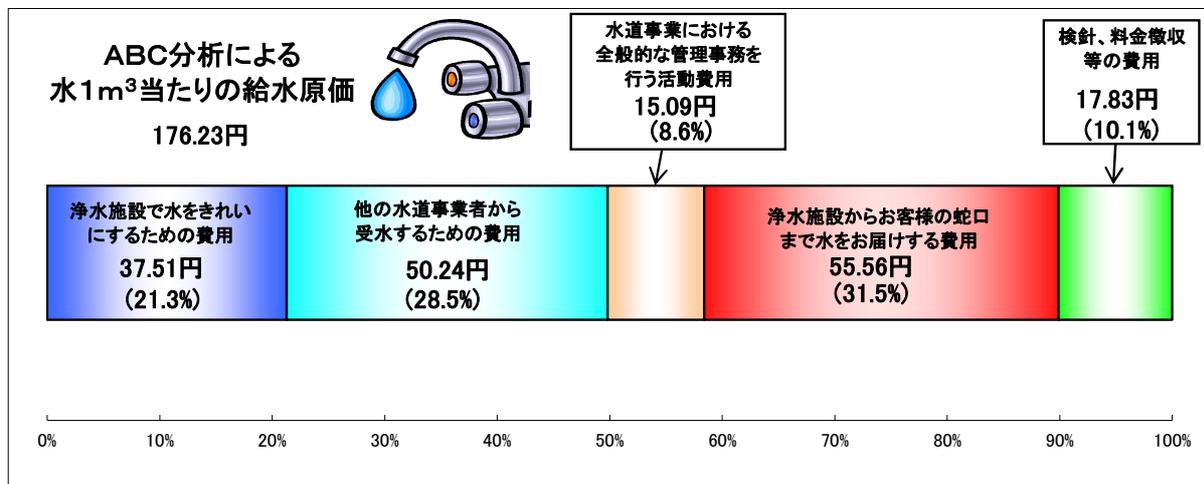
※令和6年度決算(令和6年4月1日から令和7年3月31日)数値より

### 1. ABC分析のイメージによる結果



ABC分析給水原価(単位:円)

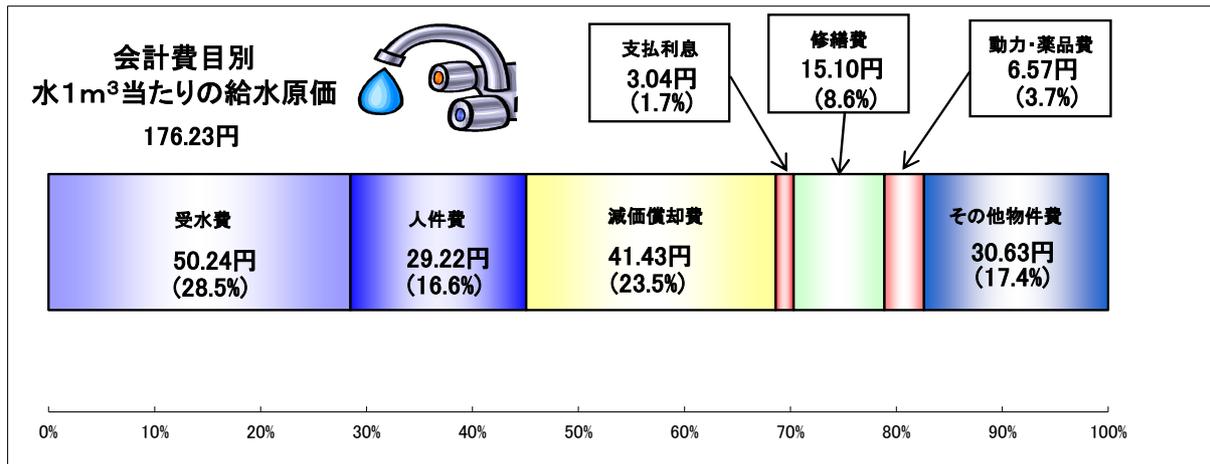
	年間有収水量	19,977,502m <sup>3</sup>	
	給水原価(円)	税抜額(円)	割合
浄水施設で水をきれいにするための費用	37.51	749,343,349	21.3%
他の水道事業者から受水するための費用	50.24	1,003,713,634	28.5%
水道事業における全般的な管理事務を行う活動費用	15.09	301,387,149	8.6%
浄水施設からお客様の蛇口まで水をお届けする費用	55.56	1,109,988,492	31.5%
検針、料金徴収等の費用	17.83	356,231,567	10.1%
計	176.23	3,520,664,191	100.0%



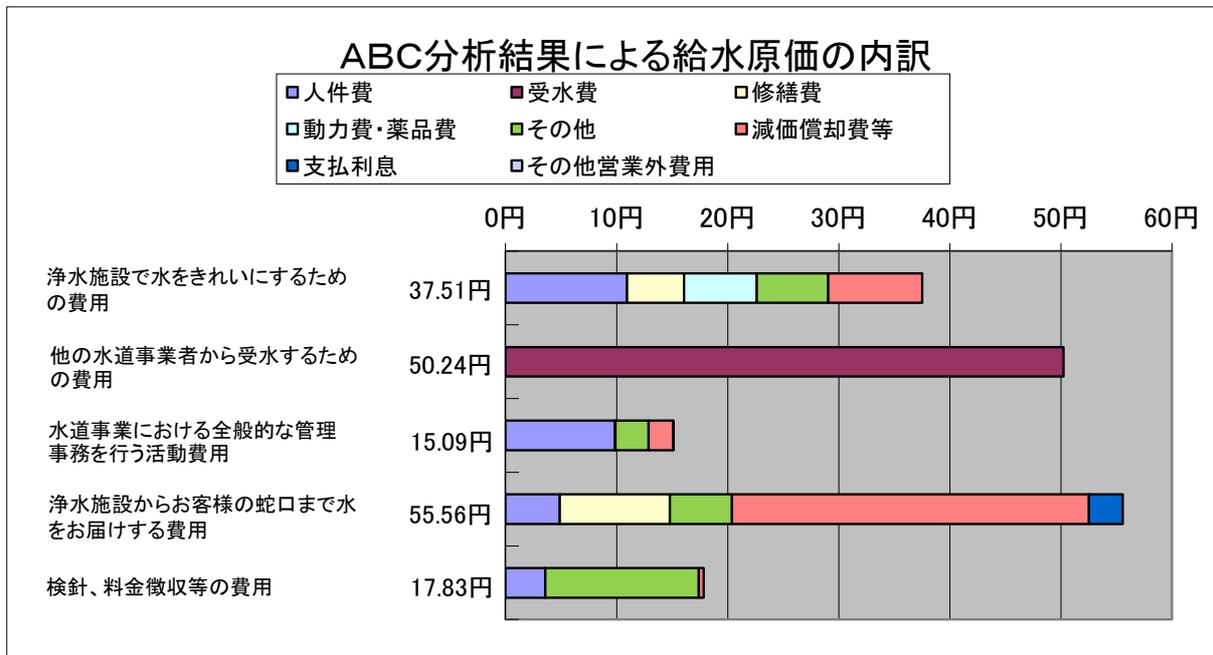
## 2. 参考

会計費目別給水原価(単位:円)

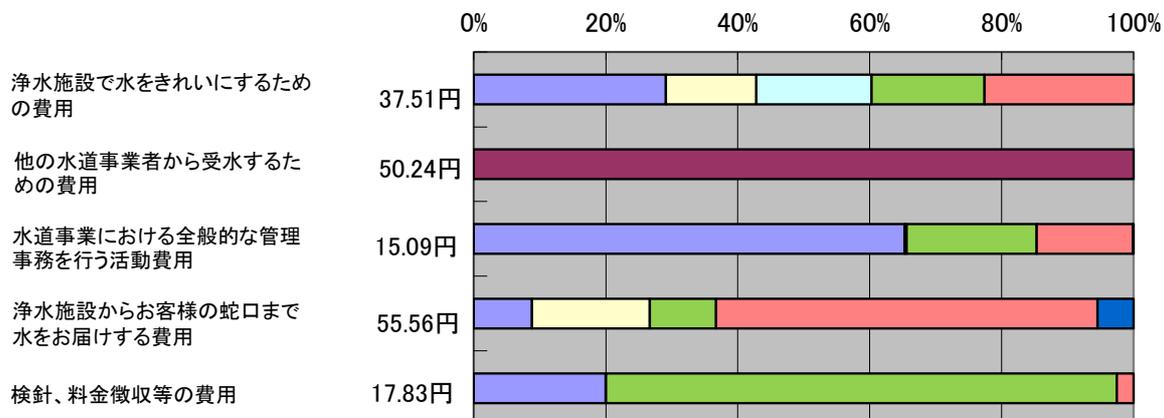
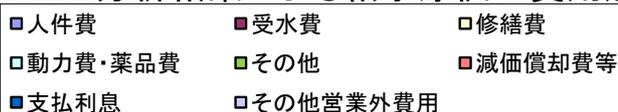
	給水原価(円)	税 抜 額 ( 円 )	割合
受水費	50.24	1,003,713,634	28.5%
人件費	29.22	583,793,537	16.6%
減価償却費	41.43	827,713,110	23.5%
支払利息	3.04	60,650,487	1.7%
修繕費	15.10	301,702,349	8.6%
動力・薬品費	6.57	131,148,545	3.7%
その他物件費	30.63	611,942,529	17.4%
計	176.23	3,520,664,191	100.0%



## 3. ABC分析グラフ



## ABC分析結果による給水原価の費用別割合



### 【分析結果】

給水原価は本年度176.23円で、「浄水施設からお客様の蛇口まで水をお届けする費用」が給水原価の31.5%、「浄水施設で水をきれいにするための費用」が21.3%と、これらの費用で全体の約半分(52.8%)を占めています。また、「他の水道事業者から受水するための費用」が28.5%となっています。

給水原価を構成する会計費目では、受水費(28.5%)や減価償却費(23.5%)、人件費(16.6%)の順で割合が高くなっています。

水道事業は「装置産業」と言われ、資産のほとんどが配水・給水施設(お客様の蛇口まで水を届けるための施設)や浄水施設(水をきれいにするための施設)で占められています。そのため、施設に係る減価償却費や施設の維持管理のための人件費、修繕費などの割合が高くなります。

今後も、施設の老朽化に伴う改築・修繕経費や、耐震化などの災害対策経費の増加が見込まれますが、安全で安心な水道水の供給を途切れることなく続けていくため、令和7年3月に経営戦略を含め作成しました「上下水道ビジョン」に基づいた効率的な事業経営を進めていきます。